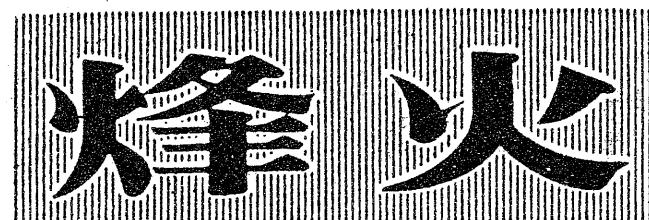


国際帝国主義の侵略反革命・第三世界支配を粉碎し、全世界の帝国主義を打倒せよ！世界プロレタリア革命—世界プロレタリア独裁—共産主義を実現する新しいインターナショナル（世界単一党）を国際階級闘争の最前線に創建せよ！

ロシアの事態に  
関する党声明

1993年  
10月9日  
(号外)

編集発行人 海路 薫



共産主義者同盟（全国委員会）

■ 大阪戦旗社 大阪市北区本庄西2-8-19  
明豊ビル401号 大労協内  
TEL.(06)371-3706  
○郵便振替 大阪3-63333  
○銀行口座 第一勧銀 515-1058150

エリツィン政権の社会主義革命弾圧を弾劾し  
スターリン主義批判に立脚したロシアにおける  
共産主義運動の再生に連帯せよ！

一〇月四日、ロシア大統領エリツィンはロシア最高会議ビルに対する軍事攻撃をおこない、ビル内に立てこもった市民を含む五〇〇名以上を殺害し、最高会議ビルを制圧した。そして、ルツコイ副大統領や最高会議の指導部を逮捕・拘束するだけではなく、ただちに保守系と言われるいくつかの新聞の発行停止、一六にのぼる政党・政治組織の活動停止を命じた。われわれは、このエリツィンによる大弾圧への溢れる怒りを抑えることができない。全世界の共産主義者、革命的プロレタリアートが同じ思いを抱いてこの事態を注視してきたことである。

そのことは、決して直接の弾圧の対象であった最高会議指導部を支持するからではない。今回の弾圧の歴史的性格が、無数の犠牲の上にたたかい取られた人類史上最初の社会主義革命＝ロシア革命の意義を真っ向から否定し、社会主義革命の一切の遺産を破壊し、ロシアにおける共産主義運動を壊滅させようとしてきたソ連邦崩壊以降のエリツィン政権による社会主義革命弾圧の一環だからである。われわれは、急速な資本主義化への労働者人民の反抗をたきつぶし、最高会議指導部のみならず共産主義運動の再生に向けた一切の動きをも壊滅させようとするエリツィン政権を満腔の怒りをもって弾劾する。そして、スターリン主義の根本的批判に立脚したロシアにおける共産主義運動の再生に向けた苦闘への国際連帯を心から呼びかけるものである。

(1)

今回の事態は、直接的には九月二一日のエリツィンによるクーデターから開始されたものであった。エリツィンは、ロシア憲法と一切の法律すら無視して人民代議員大会と最高会議の解散を命じる大統領令を発し、最高会議ビルを内務省軍によって包囲・封鎖した。エリツィンは、「反エリツィン勢力の拠点」と化してきた最高会議をたきつぶすことによつて、日々強まっていく労働者人民の不満や反抗を背景にした反エリツィン勢力をこの機に壊滅しようとしたのである。だからこそ、エリツィンは最高会議指導部の全面的な屈伏を徹底して要求し、追いつめられた最高会議側の抵抗をとらえて一〇月四日の大弾圧を強行したのであった。

エリツィン政権とロシア最高会議指導部との間の抗争は、ソ連邦の崩壊過程から次第に激しくなってきたものであった。この抗争の主要な性格は、ソ連邦崩壊以降の資本主義化を進めるごとに一致しつつ、この過程において誰が支配権を握るのかをめぐっての抗争であった。すなわち、帝国主義の全面的な支援のもとで急速な資本主義化を進めんとするエリツィンと、資本主義化を支持しつつも旧体制のもとでの特權的地位の防衛や旧体制のもとでの経済的権益の防衛・拡大を願望する勢力との間での権力闘争に他ならない。その意味では、プロレタリアートはこの抗争において、エリツィン政権はもちろん最高会議指導部を支持することもまた誤りである。

(2)

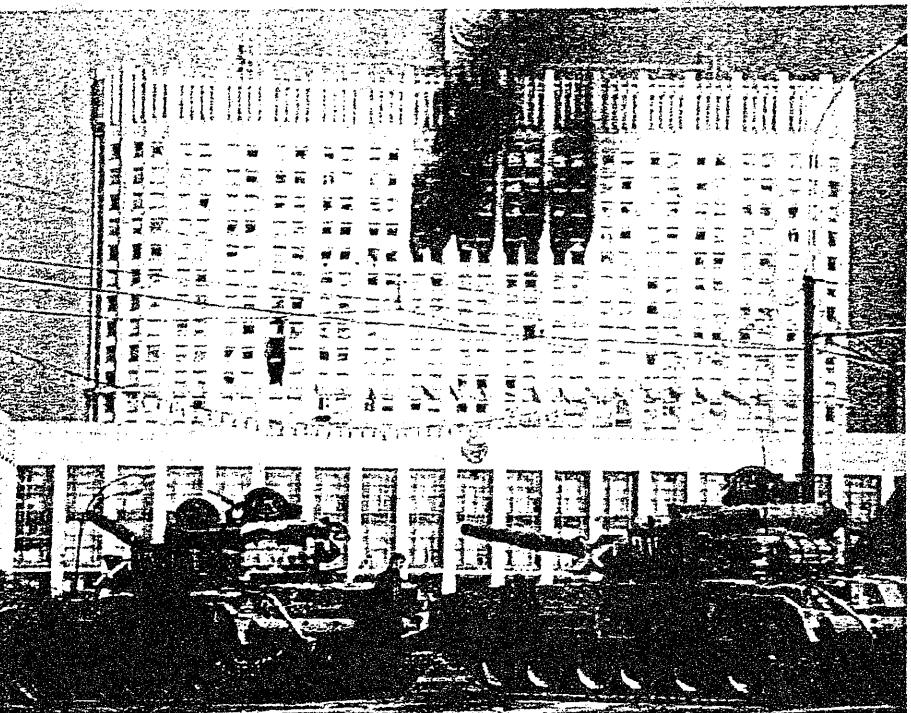
プロレタリアートが着目すべきことは、開始された資本主義化が生みだす矛盾の増大と、これを根柢にした労働者人民のエリツィン政権への不満と反抗の激化が一〇月四日の事態

の背景に存在していることである。ロシアの多くの労働者が無慈悲なまでの資本主義的搾取に直面し始め、加えて止めどないインフレが労働者人民を襲い、エリツィン政権はかかるのスターリン主義支配下よりも酷い生活苦を多くの労働者人民に強制してきた。とりわけ、社会的弱者は生きていくことすら困難な事態にたきこまれてきた。この状況のもとで、エリツィン政権への労働者人民の生きんがため食わんがための不満と反抗が広がり、またロシアの「大民族主義」に反発するロシア連邦内の共和国・自治共和国がエリツィン政権からの離反を拡大してきた。

エリツィンが恐れたことは、これらの労働者人民の不満と反抗が反エリツィン勢力と結合し、エリツィン政権を搖るがことであった。したがって、エリツィン政権による

大弾圧の狙いは、決して最高会議指導部の徹底した壊滅にとどまらない。労働者人民の不満と反抗そのものを抑圧し、スターリン主義の批判をもって共産主義運動の再生をめざそうとするすべての努力をも壊滅せんとするものである。それゆえ、この大弾圧は一〇月四日をもって終わるのではなく、一六の政党・政治組織の活動停止命令、新議会選挙からの共産主義を掲げた政党の排除の動きなどに示されるようにさらに拡大していく。この意味においてエリツィン政権による大弾圧は、階級闘争弾圧・社会主義革命弾圧として徹底的に弾劾されねばならない。

エリツィン政権によるこの大弾圧は、米帝・EC・帝・日本などの帝国主義諸国との全面的な支援のもとで初めて可能になったものである。帝国主義諸国は、エリツィンをあたかもロシアにおける「民主主義の旗手」であるかのように賛美してきた。そのことは、これらの帝国主義列強にとって、ロシアにおいて旧体制を完全に崩壊させ、あらゆる共



4日、燃える最高会議ビル前に配備されたロシア軍戦車＝ロイター

産主義運動を壊滅させ、帝国主義に従属した資本主義化を推進するために現在段階ではエリツィンが適任であるということを意味しているに過ぎない。今回の事態に対する帝国主義諸国の対応は、このことを自己暴露している。帝国主義諸国は、ロシア憲法すら踏みにじつた九月二一日のエリツィンによるクーデターをただちに支持した。そして、一〇月四日の最高会議ビルへの軍事攻撃をもただちに支持し、その報奨援助すら口にし始めている。エリツィン政権を通して、ロシアにおける階級闘争の抑圧と共産主義運動の壊滅を推進せんとする帝国主義諸国の介入とアプロレタリートは断固としてたかわねばならない。

### (3)

スターリン主義支配の崩壊から一年を経て、ロシアにおける階級闘争と共産主義運動はなお深刻な混迷の中にある。旧体制下での特權的地位の防衛や経済的権益の防衛・拡大を願望する部分あるいは右翼民族主義者などのいわゆる「保守派」が、現在の反エリツィン勢力の中でなお多数を占めているのは事実である。

しかし、スターリン主義支配の崩壊以降、ロシアにおいてスターリン主義批判を根底に据えて共産主義運動を再生させようとする苦闘が開始されたこともまた確かである。今回の事態は、これらの共産主義の再生をめざそうとする部分が、「保守派」と明確に自らを分岐させ、スターリン主義批判にもとづく新たな思想・綱領・路線をかかげた共産主義前衛党の形成へと向かうことをますます要請するものである。やがて本格化する資本主義化のもとでロシアの階級矛盾はいつそ深刻化せざるをえず、ロシアにおける階級闘争の激化は不可避である。この激化する階級闘争に立脚し、スターリン主義の破産を突破する新たな共産主義運動が必ずや登場してくるであろう。このような共産主義運動の再生こそが、ロシアにおいて苦悩する労働者人民の唯一の解放の希望である。わが国のプロレタリアートは、帝国主義による介入とエリツィン政権による反革命弾圧に対して断固としてたかわねばならない。そして、ロシアにおける階級闘争の発展に連帯し、スターリン主義の根本的批判に立脚した共産主義運動の再生にこそ連帯していかねばならない。このことこそが、苦闘するロシアの労働者人民への帝国主義本国プロレタリアートの國際主義的連帶の責務である。